

京都駅東部・東南部エリア「若者・アートモデル地区」創出事業

「Lightseeing Kyoto South」の開催

～地域の魅力や記憶、暮らしの中に新たな光を見出す周遊型アートイベント～

京都市では、京都駅東部・東南部エリアを舞台に、京都で活動する若手アーティスト・キュレーターによる作品展示やワークショップなど、エリア一帯で文化芸術が楽しめる周遊型アートイベント「Lightseeing Kyoto South」を開催します。

【背景と目的】

京都市では、京都市立芸術大学の移転を契機に、「京都駅東南部エリア活性化方針」及び「京都駅東部エリア活性化将来構想」を策定し、文化芸術によるまちづくりを進めるため、機運醸成や、市有地を活用した文化芸術関連施設の整備を進めています。

当イベントは、京都市内の芸術系大学の卒業生や若手アーティストによる活動の場を創出するとともに、アートを通じて地域と文化芸術の新たな関係性を育むことにより、若手アーティストが活動しやすい環境づくりに地域一体となって取り組む「若者・アートモデル地区」の創出を目的としています。

両エリアの方針・構想の計画終期である令和10年度までの4年間を事業期間として継続的に取り組みます。

【イベント概要】

- 会期 令和7年10月4日(土)～11月16日(日)
実施日時は、会期中の金曜日・土曜日・日曜日・祝日の午後1時～6時
- 場所 hatoba cafe(〒601-8005 京都市南区東九条西岩本町10オーシャンプリントビル1階)
崇仁市営住宅9棟空き店舗(〒600-8203 京都市下京区屋形町7-1)
ギャラリー京都七条(〒600-8141 京都市下京区西木屋町通七条上る新日吉町135-16)
- 内容 京都在住の若手アーティストによる作品の展示・ワークショップの開催・日用品として使える作品の販売など
- 参加アーティスト 後日、公式Instagram等で公表予定
- キュレーター 大倉佑亮、渡邊賢太郎(京都を拠点にインデペンデントキュレーターや芸術祭のコーディネーター等として活動) ※詳細別紙参照
- 参加費 無料



左：イベントロゴマーク（デザイン：塩谷 啓悟）

右：hatoba cafe メインギャラリー

※ 写真内の展示作品は今回のイベントと関係がありません。

<イベントコンセプト>

ー 地域にある光と、新たな光へのまなざし ー

イベント名の「Lightseeing（光をみる）」は、「日常に宿る輝きや、土地に根ざした場所や表現に目を向けること」、「過去と現在、土地と人、表現と記憶を見つめ直し、それぞれの場に新しいまなざしを重ねていく営み」を表現しています。

当イベントは、展覧会の開催だけでなく、地域に暮らす人々とアーティストとの対話や協働を取り入れ、人と人の間だけでなく、人と環境の間にも新たな関係性を育み、アートがまちの風景に自然と溶け込むことを目指しています。

さらに、周辺の文化施設やギャラリーで開催される展覧会やイベントと連携することで、訪れる人々がエリア全体を緩やかに巡りながら、それぞれの場所に息づく光を見出す体験を共有できる仕組みを構築します。

当イベントを通じて、地域に潜在する価値を照らし、日々の生活の中にある文化的な可能性をひらく。まちの輪郭を緩やかに照らし出し、光の交差点のようなひとときをつくり出す。こうしてアートを通じた地域との新しい関わり方を編み出していきます。

<連携イベントについて>

周遊型アートイベントとして、周辺の文化芸術関連施設等においても、作品展示やワークショップなどの連携イベントが開催されます。

● 会期 令和7年10月上旬～11月中旬（実施日時は施設により異なります）

● 場所等 京都市立芸術大学 ギャラリー@KCUA

京都市立芸術大学 芸大祭 2025「わたしとかけまして」

THEATRE E9 KYOTO

TERRADA ART STUDIO 京都

HAPS HOUSE

南岩本公園カフェギャラリー（9月上旬～中旬開業予定） ほか

<京都アート月間（仮称）として実施>

京都アート月間（仮称）は、国内外から訪れる方に、秋の京都でアートを楽しんでいただくことを目的として、京都市・京都府が連携し、京都市内で実施されるアートイベントを一体的に発信する取組です。当イベントは、京都アート月間（仮称）の一環として実施します。

<イベント公式Instagram>

イベントの追加情報等は公式Instagramで発信します。

https://www.instagram.com/lightseeing_kyoto_south/



<お問合せ先>

京都市総合企画局プロジェクト推進室

電話：075-222-3176

キュレーター

京都を拠点にインデペンデントキュレーターや芸術祭のコーディネーター等として活動している大倉佑亮と渡邊賢太郎の2名が、アーティスト選定・プロジェクト構成を担います。

大倉佑亮

京都駅東部・東南部エリアに、いま変化の光が差し込んでいます。グローバルツーリズムの拡大や京都市立芸術大学の移転など、京都の玄関口に位置するこのエリアでは、新しいまちの風景がつくられつつあります。この変化に向き合い、未来に向けて考えを深めていくためには、このエリアを訪れ、歩いてみるのが大切だと思っています。

「こんなお店がある」「こんな人がいた」と発見したり、「ここにこれから何ができるのだろう」「以前はどんな景色が広がっていたのだろう」と想いを巡らせながら、この地に在る、様々な時間のレイヤーに出会うことができます。

「Lightseeing Kyoto South」は、京都にゆかりのある若手アーティストと共に、変化の渦中にあるこのエリアに乱反射する「光」を見つけ出す手がかりになります。

その「光」を手がかりに、私たちはこの土地の記憶と未来を、そっと見つめ直すことができるのかもしれない。



Photo by Mikoto Yamagami

略歴

1988年生まれ。京都大学総合人間学部卒。京都を拠点に、アートプロジェクトや大学においてキュレーション、アート・マネジメント、教育に携わる。

近年は、京都芸術大学美術工芸学科非常勤講師、「森の芸術祭 晴れの国・岡山」チーフ・コーディネーター／キュラトリアル・アドバイザーを務めた。現在、「岡山芸術交流 2025」総合ディレクター補佐および京都大学非常勤研究員などを務める。

渡邊賢太郎

今年から始まる「Lightseeing Kyoto South」は、この土地とアートの新しい関わり方を探る試みです。私たちは、本企画で主に4つの会場のキュレーションを担当し、

「光」というテーマを軸に、アーティストと共に地域と向き合う場をつくります。

hatoba cafeのギャラリースペースでは、「光」を多義的にとらえる作品を通して、土地や記憶、身体や環境にまつわる輝きの在りかを探る展覧会を開催します。加えて、崇仁市営住宅9棟の空き店舗3軒では、衣食住を軸に、日常とアートが交差する空間を構成する予定です。それは作品を「見せる」場というより、地域に根ざした営みをひらき、共に過ごす時間を共有するような場づくりに近いかもしれません。

京都駅東部・東南部エリアには、長く続く文化施設と、近年生まれた新たなスペースが点在し、静かに文化の層を重ねています。各所で開かれる企画展やイベントとも連携し、マップを介して人と場所をつなぐことで、光のようにひろがる関係性を育てていきたいと考えています。このエリアを訪れた誰かが、また別の誰かにとっての「光」となる。そんな循環が生まれることを期待しています。



Photo by Satoko Noguchi

略歴

1990年生まれ。2016年より独学で展覧会企画を始め、現在は京都を拠点に、キュレーションやアーティストサポートを行う。

主な展覧会に「和を以て物語をなす」（2023/京都・瑞雲庵）、「Paraphrase」（2023/ロームシアター京都）、「和を以て景を綴る」（2025/東京・WALL alternative）。その他「haku kyoto」（2020-2023）ギャラリーディレクター、「森の芸術祭 晴れの国・岡山」（2024）、「神戸六甲ミーツ・アート」（2025）でのアーティストサポートや制作コーディネートなどがある。